

# スエニチ

版 コ ス ネ シ

道新 No. 199 本編同じ  
高知新 No. 284  
新愛媛 No. 112  
甲新 No. 121

No. 449 37.8.24

## 一、"宗谷" 故郷に帰る

—小樽

南極観測の輝やかなしい任務を果たし、今では北洋パトロールに地味な活躍をつづけている宗谷が七年ふり小樽にやってきました。船内には南極でのかずかずの記録が展示され夏休みの生徒に大変な人気。宗谷はいぜんスターです。

町から村から ✓

## 一、ひる寝商法

—東京

このところ東京は連日三十七度という大変な暑さです。下町のある月賦デパートでは正午から三時まで店を閉めて社長命令の一斉ひる寝が始まります。夏枯の七、八月に店員を休ませることは経営上、きわめて能率的だとか、この一石二鳥のひる寝商法、机で舟こぐサラリーマンには全くうらやましいことでしょう。

## 一、"豆レス道場" 拝見

—山口

野球、卓球、レスリングとスポーツならなんでもござれという山口県柳井市で、このところ一きわ盛んなのがレスリング。全国でただ一つというアマチュアの個人道場はアマレス No. 1 で鳴らした斉藤さんが後進のために私財百万円を投じて今日まで育ててきたものです。

オリンピック候補の池田選手もこの道場出身とか。未来のオリンピック選手を目指し豆レスはさかんなフットをもやしています。

アイモ風土記

## 一、おどりの町

—郡上八幡

岐阜県郡上郡八幡町は三百五十年の伝統をもつおどりの町です。この郡上踊りは、毎年、七、八月の二か月三十二夜にわたって踊り続けられ旧盆の四日間は、連続徹夜で踊り明かし岐阜県の無形文化財に指定されています。

郡上八幡は永禄二年（一五五九年）遠藤盛数が築城して以来四百年の歴史を有する城下町。また、八家八宗の集まる素朴な信仰の町でもあるのです。

宝暦八年、時の残酷城主金森頼錦を郡上義民が立て、追いはらったあと、青山幸道が仁政を行い、住民の懐柔策として、盆踊りを推奨し、現在の郡上踊りの基礎が築かれました。

以来、幾多の変遷を経て、戦後、民族芸能として、又、特別にとりあげる産業もないので山間の町の唯一の経済資源として、観光面でもクローズアップされました。今年も、中京をはじめ遠く関西方面からの観光客が二十数万と押しかけ、外務省から海外向け、日本の民謡踊り第一位にランクされるなど、古典的な郡上踊りも、いや応なく、現代の騒音の中へと巻き込まれていくのです。